



# 新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 264

R6. 3月号

みんなで使う  
図書館だから

子ども講座  
「本の修理をしてみよう」

図書館ではすぐに本を買い替えることはせず、  
傷んだ本を修理しています。

どんな修理をしているのか体験してみませんか？

日時：3月23日（土） 10:30~12:00

会場：新屋図書館 研修室

対象：小学4年生~6年生 保護者同伴なしでも可

定員：先着10名

参加料：無料

申込み：3月8日（金）午前10時から  
電話（828-4215）またはカウンターで  
受付開始

君は知ってる？そうだったんだ！  
図書館マナー

棚から取り出した本がどこにあったか忘れてしまった…。  
本はどんなルールで並んでいるの？など図書館利用について  
クイズを解きながら楽しく学んでみませんか？

期間：3月5日（火）~3月24日（日）

場所：新屋図書館 館内

かわいそうな本展

たくさん読まれていくうち、様々な理由で  
『かわいそう』になった本の展示を行います。

期間：3月5日（火）~3月24日（日）

場所：新屋図書館 エントランス

## 3月のおはなし会

3月2日（土） 14:00~14:30

むかし話

~絵本・紙芝居~

（おはなしのへや・幼児~小学生）

3月12日（火） 10:30~10:50

もうすぐ春ですよ

~絵本・手遊び~

（おはなしのへや・赤ちゃん~）

## 新刊案内

### 人、動物、動物園 時には動物から

小松 守／著

秋田協同印刷 請求記号 A480 ( 秋田の動物学 )

「あきた経済」(秋田経済研究所)に掲載された、大森山動物園の小松守園長によるコラムをまとめた本です。動物園体験をもとにして、多様なテーマで動物や動物園、そして人についての見方や考え方が書かれています。本書で頻出する言葉、「いのち」のつながりについて考えさせられる一冊です。



### 薬草手帖 心身を慈しむために

新田 理恵／著

KTC中央出版 請求記号 499.87 ( 薬草 )

昔から、人々は体調を整えるために、薬草を活用してきました。身近な植物であるタンポポやサクラにも薬効があり、何気なく食べているショウガやシソなども薬草です。本書は、そんな身近にある薬草の効能や、育成・採取の方法、薬草茶の作り方まで、生活に薬草を取り入れる方法が満載です。



### 子どもも親もラクになる偏食の教科書

山口 健太／著、藤井 葉子／監修

青春出版社 請求記号 599.3 ( 食事 )

多くの親を悩ませている子どもの偏食ですが、解決策は様々です。ところが著者によると、たった3ステップで改善できます。ケース別に対策を挙げることで、個々の具体的な悩みにも対応。給食の偏食についても取り上げています。今日から始められる工夫ばかりなのが嬉しいポイントです。

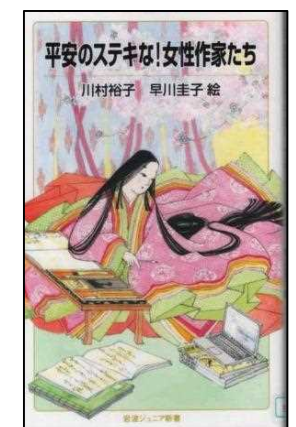


### 平安のステキな！女性作家たち

川村 裕子／著、早川 圭子／絵

岩波書店 請求記号 91カ ( 古典文学 ) ※中学生から

紫式部や清少納言など、平安時代に活躍した5人の女性作家を現代的な言葉を使って紹介しています。手紙に添えた「文付枝」をLINEスタンプに例えたり、「枕草子」の現代語訳には「エモい」や「ガチ」というワードを使ってみたり！千年前の出来事が、なんだか身近に感じられます。



## 図書館員のおすすめ本

書名	アフター・ダーク 午前零時からの街
著者名	リアム・ウォン
出版社	パイ・インターナショナル
所蔵	明德 請求記号 748 (写真集)



撮影者のリアム・ウォンが切り撮った深夜の街の風景はさながらサイバーパンクの世界。雨、煌めくネオン、人通りがまばらな交差点、焼き鳥屋の煙、客を待つタクシー、寄り添って歩く2人の影…やがて夜が深まるとあたりが空虚さと静寂に包み込まれます。

ゲームデザイナーでもあったリアム・ウォンは深夜から明け方までの街を映画的に切り出し、

そこに存在する「人の孤独」、「社会の孤独」を独特な色調で表現しました。そのビビッドで幻想的かつどこかノスタルジーを漂わせる写真はまるで映画のワンシーンのよう。

序文に『孤独は、ひょっとすると恐れるものでも渴望するものでもあるのかもしれない』とあります。「日常に疲れた…」そんな時、人は孤独を求めているのかもしれない。

書名	水を縫う
著者名	寺地 はるな
出版社	集英社
所蔵	新屋、明德、土崎、雄和、河辺 請求記号 Fテ (小説)



少し変わった家族4人とその家族に関わる人たちの物語。高校生になった「清澄」は幼い頃から父や祖母の影響で、縫い物をするのが大好き。高校では、手芸部に所属することになったのですが、周囲からは「男のくせに」と茶化されてしまい、好きであることをかくすように…。あるとき結婚する姉の為に、ウェディングドレスを手作りします。

悪戦苦闘しながら作り上げたドレスは、どんなドレスに仕上がったのでしょうか？短篇連作になっていて、章を追うごとに本のタイトルに書かれている「水を縫う」の意図が見えてきます。ラストシーンに注目です！

家族それぞれの視点で「らしさ」への苦悩が描かれていて、普通とは何か？固定概念に縛られずに生きる強い気持ちが刺さる一冊です。

## 記事になったお酒の話題あれこれ…新・お酒スイーツ誕生！…

昨年12月、廃棄される酒粕や、規格外のイチジクを使用したスイーツ、「酒蔵のブラウニー」が発売されました。開発したのは、にかほ市で食品ロス削減などに取り組むグループ「ニカホノサキ」。廃棄されることが多い酒粕を有効活用できないかと、酒粕の加工品開発を続けてきました。商品化第一弾の「酒蔵のブラウニー」は、チョコの苦みと酒粕の風味、イチジクの食感が楽しめ、アルコールが苦手な人も食べられるそう。秋田市では、あきたくらすやアトリオンで販売中です！

新屋は、醸造の街。  
新屋図書館には、酒の  
資料コーナーがあります。

【参考資料】

日本経済新聞 12月7日

朝日新聞 1月18日

## 今、あなたへ…トイレについて考える…



能登半島沖地震のニュースでも、大きく取り上げられた「トイレ問題」。今回は、私たちが生活する上で必要不可欠な「トイレ」に関する本を紹介します。

『“今”からできる！日常防災』（永田宏和ほか／監修、池田書店）には、災害に対する備えが多数掲載されています。中でもトイレについては、「自作トイレ」や「非常用トイレ」などが、長期化が予想される下水道の修復への対応手段として図入りで詳しく解説されています。

『おトイレさんびょうきになる』（きたがわ めぐみ／作・絵、教育画劇）では、森のみんなが使っていたおトイレさんが、ある病気になってしまいます。すっぽんせんせいと力を合わせて治そうとしますが…。トイレの使い方について考えさせられる絵本です。

普段何気なく使っているトイレですが、災害時はもちろん「もし使えなくなってしまうたら」と考え、使い方について見直すことも大切かもしれません。



## 図書館員のひとりごと

テレビの情報番組を見ていて、「平成12年開業の店」などと紹介されると、「なんだ、最近できた新しい店だな」と、つい思ってしまうことがある。

よくよく考えると、平成12年は今から四半世紀も前のことであり、全然新しくはない。

「平成」と聞いただけで、最近のここのように感じてしまう。これが「昭和世代」のサガか。

しかし、自分を「昭和世代」と言いながらも、「昭和」「平成」「令和」の3時代を生きてきて、実は、「平成」の時代を一番長く生きている……。

(S)

気象庁が発表した長期予報によると、「今年の1月から3月にかけては全国的に例年より気温が高くなる」とのこと。振り返ってみれば、昨年未からこれまで、何度か雪が積もりはしても数日のうちに融けてなくなってしまい、あまり冬らしい光景を見ていない気がします。ずっと雪が降らないのは楽ではあるのですが、暖冬は突然大雪が降るリスクも大きいらしく、「今は積もっていないから大丈夫」「今年の冬は暖かいから大丈夫」と油断してもらえません。

春になる前に、（雪かきがつらくない程度に）しっかりと雪が降ってくれると少し安心なのですが…。

(K)